

多治見市
浸水事前防災行動計画（タイムライン）
検討会の進め方

平成27年7月21日（火）
多治見市タイムライン検討会

タイムライン構築の5つのポイント

事前の行動猶予時間

- 対象とする災害は、台風など事前の行動猶予時間がとれるものであること

シナリオとリスクの共有

- 災害シナリオと被災リスク(最大)を各機関や主体が共有できること

具体的な役割を持った連携

- 地域の防災機関が役割をもって連携できること

行動のきっかけの明確化

- 水害の専門家と地域が連携して行動のきっかけを明確にできること

既存の防災計画を補完

- 事前の防災行動要領として既存の防災計画を補完できるものであること

構築ポイントを踏まえた検討方針

事前の行動猶予時間

- 事前の行動猶予時間がとれる台風災害に主眼を置いた検討を進める

シナリオとリスクの共有

- 事象が共有できている平成23年台風15号を振り返り、防災行動を抽出
- 被災リスク(最大)を共有するために災害シナリオと被災リスクを議論

具体的な役割を持った連携

- 防災機関の機能に応じたグループ分けを行い、ワークショップ形式の議論

行動のきっかけの明確化

- 具体的な災害シナリオを想定しながら行動基準となりうる情報や状況を整理

既存の防災計画を補完

- 既存の地域防災計画や避難判断マニュアル等とは相互補完関係

検討にあたっての前提条件

①検討の対象とするハザード:台風によって発生する水害(内水・外水)

- ✓ 外水は、土岐川の堤防決壊を想定
- ✓ 内水については、土岐川支川(笠原川、笠原川)も対象
- ✓ 具体的な想定ハザードや災害シナリオは、次回検討会で提示
- ✓ 今年度は、土砂災害は対象外。水害が取りまとめ後、土砂災害に拡充予定
- ✓ 第1回検討会は、内水時の各機関の災害時の行動を抽出するために、平成23年台風15号を対象としたワークショップを行う。
→第2回以降、ワークショップ抽出した項目を、想定シナリオの時間軸に当てはめ、整理を実施

②検討の対象エリア:平和町・池田町、前畑町・田代町等

- ✓ 議論の混乱をさけるため、今年度は、対象エリアを上記に絞り検討を実施
- ✓ 次年度以降、多治見市の他エリアに拡充予定

③検討の目的:水害(外水・内水)に対して、確実に人命を守る

- ✓ 早めの行動・意志決定(避難勧告等)を行うために行政がすべきこと何か
- ✓ 浸水をできる限り軽減するために、施設管理者(河川・道路等)がすべきこと何か
- ✓ 確実な避難(逃げ遅れ、要配慮者等)を実施するために、消防団、住民、行政がすべきことは何か

当面の検討会の進め方（案）

回数	開催時期	主なテーマ(目的)	災害シナリオ	検討アウトプット (各検討会実施後)	その他
第1回	7月	防災行動の抽出(内水)	平成23年台風15号	防災行動項目表(内水)	アンケート調査は7月 末で回収予定
第2回	9月	①想定シナリオと被災リスクの共有 (内水・外水) ②防災行動の抽出(外水)	台風接近(直撃)に伴う 土岐川の破堤はん濫シ ナリオ(想定)	防災行動項目表(内水・外水)	事務局にて、第1回、 第2回のアウトプット を元に、シナリオ時系 列に整理した事務局 骨子案を作成
第3回	11月	①事務局骨子案の確認 ①事務局骨子案における防災項目 の時系列の再整理 (第1次案(骨子案)の作成)		多治見市における浸水事前防災 行動計画(第1次骨子案)	第1次案は調整でき た時点で検討会メン バーへ意見照会
第4回	1月	①多治見市浸水事前防災行動計画 (第1次骨子案)の確認 ②行動開始のタイミング(トリガー情 報の設定)		多治見市における浸水事前防災 行動計画(素案)	
第5回	3月	多治見市における浸水事前防災行 動計画の確認		多治見市における浸水事前防災 行動計画(平成27年度検討案)	

水害対応時の主な課題

検討の目的: 水害(外水・内水)に対して、確実に人命を守る

- ✓ 早めの行動・意志決定(避難勧告等)を行うために行政がすべきこと何か(目的1)
- ✓ 浸水をできる限り軽減(内水排除等)するために、施設管理者(河川・道路等)がすべきこと何か(目的2)
- ✓ 確実な避難(逃げ遅れ、要配慮者等)を実施するために、消防団、住民、行政がすべきことは何か(目的3)

平成23年台風15号における課題

課題1 急速に事態が進展したため、既存の行動基準では対応しきれなかった(目的1)

- 避難の呼びかけ・避難勧告の発令をするにあたり、過去の災害事例における水位を基準に設定して対応していたことから、事態が深刻になる前に確実な避難の呼びかけが十分できなかった。あらかじめ事象の発生が見込める場合には、水位などを判断指標に用いるのみならず、より積極的な判断指標を検討する必要がある。

課題2 平和町等の内水排除に時間を要した(目的2)

- 平成23年台風15号の際、各地で内水が発生した。特に平和町での内水がひどく、排水にも時間を要したことから、内水を想定した排水計画を検討する必要がある。

課題3 道路冠水等により防災行動が制限された(目的2・3)

- 平成23年台風15号の対応時には、内水はん濫によって道路冠水による交通渋滞が発生しており、防災活動の支障となったことから、道路冠水を想定した対応の検討や、速やかな排水を行えるような施設運用(道路規制等)を検討する必要がある。

課題4 小中学校等の休校・授業の切り上げと要支援者の避難確認が後手に回った(目的3)

- 帰宅できない児童生徒、迎えに行けない保護者が発生したことから、子どもたちの安全確保策の検討と併せ、住宅に取り残された住民が発生したことから、浸水区域からの確実な避難のための呼びかけ、災害弱者の避難支援の検討が必要。

参考：既存計画等とタイムラインの関係（イメージ）

フェーズ(状況)

平時

前兆

降雨開始

水位上昇

警戒水位

はん濫

応急対応

復旧復興

各種計画や取り組みによる防災啓発や計画策定

各主体で対応はしているが明確化されていない領域

【流域危機管理計画等】

- 被害量、シナリオの検討
- 被害を軽減するために各機関が取り組む内容を検討

【避難判断・勧告マニュアル等】

- 水位予測に応じた避難判断基準を整備
- 自治体の避難判断支援

特に関係機関が連携することや『前もって対応する』ことが経験則になりがち

【地域防災計画等】

- 被害発生後の対応に軸足
- 具体的なタイミングや役割分担は明記していないことが通常

【タイムラインの取り組みで整理する領域】

- 各主体の行動内容を『見える化』
- 行動内容の明確化により具体的なタイミングや役割分担・連携を整理
- これまでの取り組みや計画を補完し、より効果的・効率的なものへ

t(時間)